

『胃カメラ』ってどんな検査？

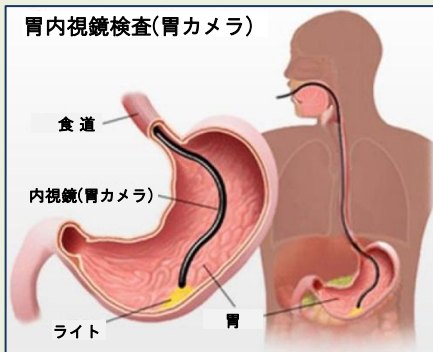
世界で初めて胃の観察に成功したのは、ドイツの医師クス Maul です。1868年、医療器械店に、長さ47cm、直径13mmの金属管を作らせ、剣を呑む大道芸人の検査に用いたのが始まりだそうです。1932年にドイツの医師シンドラーが発表した軟性胃鏡は、直径11ミリの管で、先端1/3の部分がある程度曲がり、内部に多数のレンズをつけて豆電球で照らしながら胃の内部を見たそうです(右図)。



それから約150年経った現在、内視鏡はめざましい進歩を遂げました。

今回は、胃カメラについてのお話です。現在の内視鏡は体内で柔軟に曲がり、見たい方向に左右上下と曲がって進んでいくことができます。また、臓器の中を照らす光量を調節したり光の種類を変えたり、空気を入れたり出したり、組織を一部採取したり腫瘍を切除したりと昔と比較にならないほどの性能になっています。

胃や大腸に止まらず、胆道(胆汁の通り道)や膵臓、気管支なども詳しく観察して治療をすることができます。また、おなかに小さな穴を開けて体内に挿入する腹腔鏡を使って消化管や肝臓、肺、子宮や卵巣などの病気に対しても治療が可能です。



◆ 胃カメラ検査とバリウム検査の違い

胃がん大国の日本では、診療や健康診断などで胃の検査が盛んに行なわれていますが、胃バリウム検査と胃カメラでは何が違うのでしょうか？

胃バリウム検査は、白いどろどろした液体(硫酸バリウム)を飲んで、食道・胃に流し込み、X線でレントゲン撮影する検査です。簡便で短時間にでき、リスクも少ないのが利点ですが、一方で、バリウムを飲み込むのが苦手、体位をいろいろ変えての撮影が大変、というデメリットもあります。



胃カメラ検査は、先端にレンズがついた、細長いホース状の器具(ファイバースコープ(左図))を、口あるいは鼻から挿入し、のどを通して食道、ス

胃、十二指腸(一部)の内部を観察する検査です。バリウム検査と違って内部を直接観察でき、早期胃がんのように小さい病変を発見しやすく、必要があれば組織を一部採取して病理細胞検査をすることもできます。

◆ 胃カメラ検査はつらい？

胃カメラ検査はつらいと感じる人も多いと思いますが、それは何ととっても、ファイバースコープを飲み込む際に、のどを通るときのゲーゲーという反射(咽頭反射)のためです。胃カメラをのどに挿入されると多くの人に反射が起こりますが、その程度には個人差があり、軽度の反射ですぐに治まる場合もあれば、強い反射が起こって検査中ずっと続く場合もあります。その他、カメラが食道から胃に入るときや胃の奥にカメラを進めるときの圧迫感や、胃の中をよく観察するためにファイバースコープを通して行なう送気によっても不快感が生じます。このような不快感を少しでも軽減して楽に検査を受けられるようにするために、麻酔薬(鎮静剤、鎮痛剤)を使用します。胃カメラで使う麻酔薬は、全身麻酔で意識を無くすようなものではなく、意識下鎮静といって、医師と患者さんとの間でコミュニケーションを保つことができるレベルの鎮静方法です。これらを使うことによって、ぼーっと眠った状態で検査ができます。完全に眠ってしまう患者さんもいれば、あまり眠くならず全く効かなかったという患者さんもいて個人差がありますが、適宜調節してできるだけ鎮静状態で苦痛のない内視鏡検査ができるよう努めております。



宮川 佳也 先生

日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本消化管学会認定医
2015年4月より日本クラブ診療所にて「内視鏡検査」を担当。胃腸に限らず消化器疾患の診療経験が豊富。

(次ページへ続く)

◆ 胃カメラってどんな検査？

日本クラブ診療所で胃カメラ・大腸カメラを行う内視鏡検査を行う部屋は、完全に個室になっていますが、同じ部屋が耳鼻科などの小手術にも使用されるため、无影灯があったり、1人の患者さんにスタッフが数名いたり、やや大袈裟な印象がある事から、緊張感を感じる方が多いようです。しかし、スタッフや看護師は、みなフレンドリーで親切ですので、リラックスして検査をお受け頂ければと思います。

実際には血圧や酸素の取り込みを監視するモニター、酸素チューブ(鼻)を装着後、のどに麻酔のスプレー(キシロカインというお薬を使います)を行い、腕の血管に鎮静剤を注射してからファイバースコープを口からゆっくり挿入していきます。

まれに鎮静がほとんど効かない方もいらっしゃいますが、多くの患者さんは多少なりとも鎮静効果を感じているようです。

ファイバーが咽頭を入るところですでおえっとしてしまう敏感な場合は、のどの麻酔や鎮静剤を追加してできるだけ苦痛のないようにします。それでも反射が続くつらい記憶が残ってしまう場合がありますが、多くの患者さんは挿入時の苦痛が軽減されております。ファイバーが挿入中は普通に呼吸はできますので、鼻から吸って口で吐く呼吸(経口挿入の場合)を楽に続けて、首、肩、おなかの力を抜いて、のどを意識しないように、ごくごくしないようにするのがコツです。検査が終わると隣の部屋に移動して鎮静が覚めるまで休んだ後、診察室で検査結果をご説明しております。

◆ 日本クラブ診療所の胃カメラ・大腸カメラ

日本クラブ診療所の内視鏡検査は、上部消化管(胃カメラ)、下部消化管(大腸カメラ)とも、日本クラブ診療所が所在する St John & St Elizabeth 病院内の内視鏡検査室で行なっております。

内視鏡機器は拡大観察機能を備えたハイビジョンスコープを使用しており、早期胃がんの診断に有用な狭帯域光観察(NBI: Narrow Band Imaging)も可能ですので日本と同等のレベルの検査を行なうことができます。

日本クラブ診療所の患者さんの内視鏡検査は全て私が行っておりますので、どうぞお気軽にご相談ください。また、内視鏡検査以外にも胃腸関連、肝臓、胆道、膵臓など消化器全般に関する症状やご心配につきましても、お気軽にご相談ください。

(おわり)

◆◇ 林弘子(はやしひろこ)医師が着任しました ◇◇



このたび東京慈恵会医科大学より派遣され、日本クラブ診療所で勤務させていただくことになりました。

専門は、慢性腎炎などの腎臓・高血圧疾患です。

これまで複数の企業で産業医として勤務し、海外に赴任する社員とご家族の健康管理を行ったほか、国交省にて航空機乗務員の日常健康管理に関する通達をまとめた経験もあり、海外で生活される方々の健康管理に長期間携わってきました。

日本クラブ診療所では、病気などの時だけでなく、普段からの健康相談等で、皆様のお役に立ちたいと思っております。

どうぞよろしくお願いたします。